科目ナンバリング					
授業科目名<英訳>	ドイツ文学 German literature		担当者所属 職名・氏名	文学研究科　教授　　川島　隆	
群	人文・社会科学科目群	分野(分類)	芸術・文学・言語(基礎)	使用言語	日本語
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義（対面授業科目）
開講年度・開講期	2024・前期	曜時限	月5	配当学年	全回生	対象学生	全学向

[授業の概要・目的]

民族・文化・宗教などを異にする「他者」を描くことは、古今東西の文学にとって重要なテーマであり続けてきた。ドイツ文学においても、18世紀の啓蒙主義の時代から現代に至るまで、「オリエント」のイスラム世界、アジアやアフリカ、南太平洋の「野蛮人」などの姿が多様に描かれてきた。ただし、そこで描かれた像は、ともすれば現実の他者の姿を暴力的にゆがめるものであり、それは他者を不当に貶める場合と、理想化して礼賛する場合の両方について言える。その問題性について意識しながら、「他者」を描いたドイツ文学の系譜を中世から現代までたどる。

[到達目標]

1．ドイツ文学に描かれた「他者」の系譜を、それぞれの時代の文化的な背景とともに知る
2．「他者」の像を描くことにまつわる暴力性の問題について考える

[授業計画と内容]

第１回　イントロダクション――「他者」とは誰か
第２回　ヴォルフラム・フォン・エッシェンバッハ『パルツィヴァール』
第３回　カンペ『新ロビンソン物語』
第４回　レッシング『賢者ナータン』
第５回　ノヴァーリス『青い花』
第６回　クライスト『サント＝ドミンゴ島の婚約』
第７回　シャミッソー『影のない男』／E・T・A・ホフマン『ハイマトカーレ』
第８回　ドロステ＝ヒュルスホフ『ユダヤ人のブナの木』
第９回　シュティフター『石さまざま』
第10回　ハインリヒ・ホフマン『もじゃもじゃペーター』
第11回　カール・マイ『ヴィネトゥー』
第12回　カール・クラウス『万里の長城』／カフカ『万里の長城が築かれたとき』
第13回　エンデ『ジム・ボタンの機関車大冒険』
第14回　ダニエル・ケールマン『世界の測量』

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

授業中の小課題にもとづく平常点（50%）および期末レポート（50%）で評価する。

[教科書]

授業中に指示する

ドイツ文学(2)へ続く↓↓↓

ドイツ文学(2)

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業で扱う／扱った作品を可能なかぎり実際に手に取って読んでみてほしい。

[その他（オフィスアワー等）]